

健康づくり推進専門分科会委員から意見(概要)

令和7年10月2日(木)開催の第2回健康づくり推進専門分科会(後日提出意見も含め)で、各委員の皆さまからいただいたご意見の概要をまとめたものです。
これらのご意見を踏まえ、計画(案)を作成しています。

No	ご意見
1	第5期計画の基本目標「いきいきと暮らすための健康づくり」で、母子保健の部分も含める考えると、低年齢からの健康づくりが必要だという内容を入れたほうが良い。また、国で、健康日本21(第3次)が開始されているので、計画のどこかで触れたほうが良いと考える。
2	住民向けのアンケートで、医療提供体制の充実を求める声というのが非常に多い。このアンケート結果を受けての対応策などが計画の中であれば良いと考える。
3	栄養相談実施後の状況把握ができる手段があると良いと考える。 児童期から骨(骨密度)に関する指導ができると良いと考える。また、特定保健指導や結果説明を受ける方が高齢のため、指導しても結果につながりづらいという課題があり、意欲を継続させていくことが難しい状況でもある。このような方を対象に指導ができる機会がもう少し増えると良いと感じる。
4	子どもの予防接種の種類が増えてきており、管理が非常に難しくなっていると感じる。子どもは医療機関を受診する機会が成人より多いため、受診の際に医療機関から次の予防接種の案内をしていただくなどの取組も必要と考える。 がん検診の受診率が非常に低くなっている。町としての働きかけや、幅広く実施できる方法を検討していく必要性がある。 若年層、幼少期からの健康に関する教育というのは非常に重要である。いままでの生活が定着している成人期から生活習慣等を変えていくことは、非常に難しいため、低年齢(小学生頃から)少しずつ教育するということが大事であると考えている。
5	健康寿命をいかに伸ばしていくかが課題となる中で、健康増進に係る活動等を行っている団体が減少している現状がある。このような団体への支援が必要であると考えている。